

事例
研究高年齢者の活躍が
企業の未来を切り拓く

少子高齢化に伴う労働人口の減少は、人材不足を招く大きな問題となっています。本紙では、高齢者の積極的な採用により、問題解決に向けて取り組まれている企業をご紹介します。

1. 意思及び人格の尊重 2. 快適な施設づくり 3. 地域福祉の充実

『社会福祉法人 大友恵愛会』
《特別養護老人ホーム 大友恵愛園》

若い職員に対して
適切なアドバイスをしてくれる！

「利用者が尊厳を持って、その人らしい自律した生活を送れるよう、その人の意思及び人格を尊重したケアに努めます。」を法人理念の第一義とする社会福祉法人 大友恵愛会《特別養護老人ホーム 大友恵愛園》事務局長の中井康人さんにお話を伺った。同法人は所在地の敷地内に①特別養護老人ホーム②短期入所生活介護③通所介護④認知症対応型通所介護⑤居宅介護支援⑥介護予防センターの事業を運営。全体の職員数は157名、そのうち31名が60歳以上の職員で1年365日、24時間体制で運営している。採用時点での年齢は65歳未満の規定であるが、それまでに入職された方は一定の基準を満たせば、65歳を過ぎても働ける環境を整えている。「年齢に関係なく、学ぶ姿勢や意欲があり、社会貢

献をしたいと思っている方は、経験が無くてもまずは自分に出来るところから始められる職場です。シニアの方を必要とするのは、これまでの社会経験や子育て、親の介護などの経験を活かしてくれること。若い職員に対して適切なアドバイスをしてくれることなどでの貢献が非常に大きい。結果、利用者に寄り添ったケアとなるのです。」と中井さんは言う。

自分の家族だったら、
こうしてあげたい！

現在67歳の堀時志子さんにインタビューさせていただいた。堀さんは事務のお仕事や冠婚葬祭、スーパーマーケットなど多岐にわたるお仕事を経験された後、50歳の時に同法人に正職員として入職し、63歳の時に体力的なことを鑑み、日勤中心の勤務に切り替えた。現在は週5日で1日の勤務は5時間。実際のお仕事内容は、“ユニット型”と言われる個室が配置されていて、リビング、キッチン、食堂などのスペースが併設される施設で配膳や食事の介助、排泄介助などの生活のお手伝いをするのが主な仕事である。過去の職歴で様々な職種をされてきたので、介護の仕事も戸惑いは無かったのかを伺うと、「直接的に人と接する仕事は経験がなかったんです！なので、不安もあったし、同僚とのコミュニケーションも上手くいかなかったこともありましたが、でも、話さなければ伝わらないので、自分から積極的に話すことで色々な情報も共有できるようになり、今では不安や辛さはありません。」「利用者の方からありがたいという言葉や笑顔を見せてくれることが嬉しいし、やりがいを感じるんです。だから、自分の家族だったら、こうしてあげた



【施設建物】
「大友恵愛園」



【お仕事中の堀さん】「〇〇さん!寒くないかな?」

法人概要 【法人名】社会福祉法人 大友恵愛会
【代表社名】理事長 中川 智義
【所在地】札幌市東区北17条東5丁目2番5号

【設立】1979年12月
【従業員数】157名
【事業内容】特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・通所介護など

い！という気持ちや気づきということを大切にしています。』

休日の過ごし方や趣味についても聞いてみた。音楽が好きで聴くことと、一人カラオケも行くのだそう。仕事の日も午前中に業務を終えて、午後からはジムに通って体力の維持をしているとのこと。

これから仕事をしたいと考えているシニアの方へのメッセージをいただいた。「介護という仕事は経験が無いと抵抗感があったり躊躇してしまうことがあるかもしれません。ですが、身体介護は出来なくても食事の準備だったり、見回りだったり、利用者との会話なども必要で重要な仕事です。必ずできる仕事はあるんです。経験や資格も無いし、介護の仕事は・・・というイメージを一旦払拭してみたいはいかがでしょうか？」

今回訪問した大友恵愛会は、安心して利用できる設備や環境が整っており、温かみを感じる総合病院のようだと感じた。大友恵愛会の強みは、一か所で全てのサービスが受けられるということであり、運営指針の一つに掲げている《利用者一人ひとりのその人らしさを尊重する個別ケアを実践

するために、基本的なケアの充実とともに質の高い利用者本位のサービスの提供に努めます。》を体現したものであると言えるだろう。



事務局長 中井 康人さん
「私たちの職場は先ず見ていただきたいんです！」



堀 時志子さん(67歳)
「あの時こうすればよかった。とならないように気づくことを心がけています。」

社労士からひとこと！



社会保険労務士・
キャリアコンサルタント
産業カウンセラー

小嶋 亜希子 さん

シニアの経験値が若い世代を引っ張っていける！

介護の業界は「体力勝負」であり、若い世代しか動まらないうちにいる方が多いと思います。

確かに身体介護に限定してみると、体力のある若いの方が有利なのかもしれません。しかし、お食事のお手伝いなどは、年齢を重ねたシニアのスタッフの方が適任という事もあるのではないのでしょうか？

お食事のお手伝いをしながら昔流行った演歌歌手の話をしたり、昔の映画の話をしたり、シニアの方でしかできないサービスというのがあると思います。

今まで培った人生の経験値で若い職員に様々なアドバイスをできるのもシニアの方ならではのものです。ご自身の経験をどんどんアウトプットしてみたいはいかがでしょうか。

シニアの方の就職および求人募集は【就サポ】へ！

お申し込み・お問い合わせ

札幌で就活なら
就サポ 札幌市就業
サポートセンター

《受付時間》平日8:45~17:00(土・日・祝日・年末年始除く)

就サポサービス情報サイト <https://saposen.co.jp>



就サポHP



札幌市就業サポートセンターでは、札幌市が委託する民間職業紹介事業者とハローワークが共同で無料の職業紹介サービスを行っている全国で唯一の官民共同窓口です。職業紹介やカウンセリング、セミナーなどを組み合わせた多様な就労支援サービスを提供しております。

《求職者向け》シニアの方の雇用の求職のお問い合わせ

☎ **011-708-8321**

《企業向け》シニアの方の雇用の求人募集のお問い合わせ

☎ **011-708-7865**

さっぽろ市
02-H01-24-2767
R6-2-1766

主催：札幌市 実施・運営：株式会社 東京リーガルマインド

XV2400219